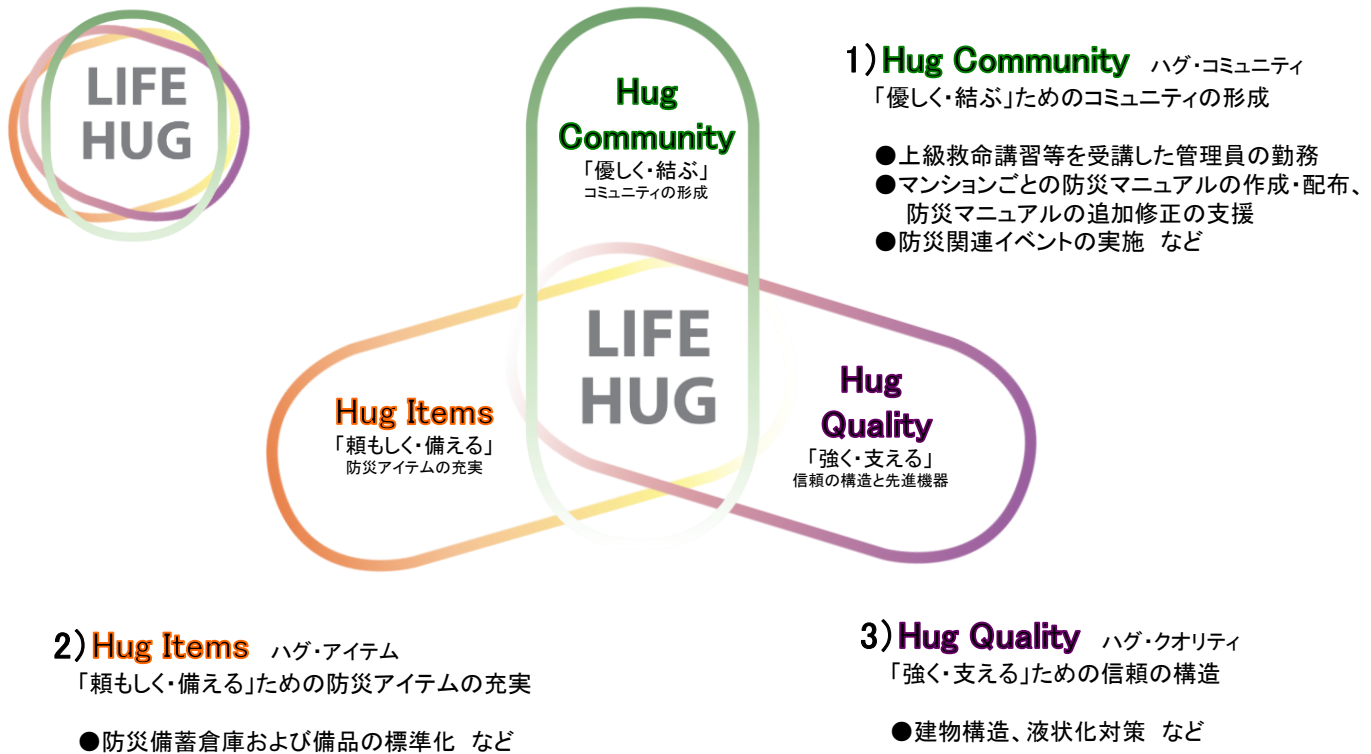


## 伊藤忠都市開発株式会社 「マンションの防災サポート」 「クレヴィア ライフ・ハグ」を策定 伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社にサポートを委託

伊藤忠都市開発株式会社(東京都港区、社長/辻村 茂)は、生活者の中でますます意識の高まりを見せる、地震などの災害にいかに備えるかという課題に対して再検証し、当社のマンションの防災対策を総合的に見直し、新たな視点と体制等によって強化した防災サポート「クレヴィア ライフ・ハグ」を関東圏より導入することを決定いたしましたのでお知らせいたします。第1号案件として「クレヴィア 検見川浜」より導入し、「クレヴィア 市川行徳」「クレヴィア 辰巳」などクレヴィアマンションシリーズにて導入される予定です。

「クレヴィア ライフ・ハグ」は、伊藤忠都市開発がお届けするマンション「クレヴィア」の使命である“人生を守る住まい”として、その名称の通り、かけがえのない人生を強く、優しく抱擁することを目指した、総合防災プログラムです。

「コミュニティ形成・防災備蓄・住品質」の3つの観点から、多角的で多層的な安心のカタチを追求・具現化しています。



※各マンションによって異なります。

導入に際しては、防災に関するコミュニティ形成サポートをグループ管理会社である伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社(本社:東京都中央区 代表取締役社長 猪熊 茂男、以下「アーバンコミュニティ」)に委託。アーバンコミュニティが管理を担当するマンションを対象とし、本サポートを行います。伊藤忠都市開発は、今後も様々な最新技術や情報を取得し、更なるお客様サービスの向上等にも積極的に取り組んでまいります。

本件に関するお問い合わせ先

伊藤忠都市開発(株)広報室/小泉・若林 TEL:03-6811-0254

## 「クレヴィア検見川浜」の事例

クレヴィア検見川浜では、「クレヴィア ライフ・ハグ」において、1)ハグ・コミュニティ 2)ハグ・アイテム 3)ハグ・クオリティの取組みを下記のような内容で具体的に行って参ります。

### 「クレヴィア検見川浜」物件概要

所在地:千葉県千葉市美浜区真砂4丁目1-9 (地番)

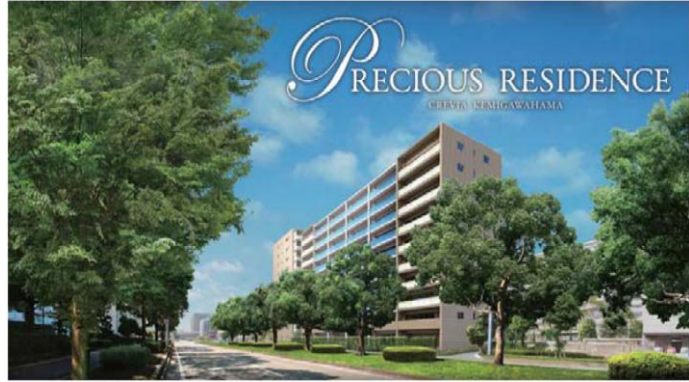
交通:JR京葉線「検見川浜」駅徒歩5分

構造・規模:鉄筋コンクリート造、地上11階建て

建物竣工予定:平成25年4月中旬予定

間取り:3LDK~4LDK

総戸数:155戸(他に管理事務室1戸)



### 1) Hug Community ハグ・コミュニティ

□災害時に、支え合い、助け合うのは、居住者同士です。  
居住者の方々がつながり、絆を育む住まいを。

自分のできる限りの備えをする“自助”から、ご近所同士で力を合わせる“共助”までを形づくるのが、真の「防災」になります。日頃からの居住者同士のコミュニケーションが、災害時にも大きな力となります。万一の災害に対して居住者の皆様が結束して対処できるコミュニティ作りの支援も非常に重要。「伊藤忠アーバンコミュニティ」では、そんなコミュニティ作りのためにも、居住者の気持ちが寄り添うコミュニティのバックアップやイベント等をサポートいたします。

- クレヴィアのマンションには上級救命講習等を受講した管理員が勤務。非常時の的確な対応を住民に指示できる。
- 防災マニュアル（震災時活動マニュアル等）を作成し居住者に配布。また管理組合理事会と協議し各マンションの特性に合ったマニュアルに修正・追加支援を行う。
- 居住者のコミュニティ形成のため、設立総会時にウェルカムパーティーを開催。マンション内の居住者の方々の顔を知り、居住者同士の絆を深めるきっかけとする。
- 防災セミナー、防災訓練などを行い、防災意識を高めると共に居住者同士のコミュニケーション強化をサポート。

### 「優しく・結ぶ」ためのコミュニティの形成



ウェルカムパーティーの様子



震災時活動マニュアル見本

## 2) Hug Items ハグ・アイテム

「頼もしく・備える」ための防災アイテムの充実

### 防災備蓄倉庫に格納する備品



発電機(参考写真)



防災救急セット(参考写真)



炊き出し器具(参考写真)



階段避難車(参考写真)



コードリール(参考写真)



燃料(参考写真)

#### 【対策本部要員用品】

- 大型懐中電灯
- 無線機
- コードリール
- 発電機
- 投光器
- ハンドマイク
- 革手袋
- ポリバケツ
- テーブル
- ヘルメット

#### 【補修用品】

- 防水シート
- ロープ
- 標識用テープ
- 砂袋

#### 【生活用品】

- 折りたたみ式リヤカー
- 給油ポンプ
- トイレ紙ペーパー
- 食器類
- 炊き出し器具
- 燃料

#### 【救助・救護用品】

- 油圧式ジャッキ
- 防災救急セット
- 布担架
- 階段避難車
- 平パール

※備蓄品は、現在検討中のアイテムであり、変更となる場合があります。

### 非常用飲料水生成システム「WELL UP MINI」



※参考写真

建物内に設置した非常用水槽(約20t)から取水し、スピーディにろ過。1日最大で約4.8t、約1,600人分の飲料水の供給が可能。※最大供給には燃料補給が必要となります。

### 非常用マンホールトイレ



※参考写真

地震などにより水洗トイレが使用できない状況を考慮し、敷地内の非常用マンホール(2か所)の蓋を外してマンホールの枠に簡易トイレ(洋式便座)を設置するだけで利用できます。

### 地下防火水槽



※概念図

消防隊の迅速な消火活動をバックアップするために、地下に水を溜めることができる約40tの防火水槽を設置しています。

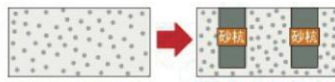
※記載のアイテムはクレヴィア検見川浜の事例となります。

## 3) Hug Quality ハグ・クオリティ

「強く・支える」ための信頼の構造

### □将来的な安心のための液状化対策。

地盤を締固めるために砂杭を貫入し、元の地盤の密度も高めました。



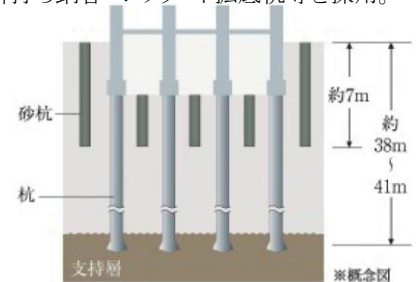
■液状化対策前の地盤 ■液状化対策後の地盤 ※概念図



計画地の工事風景(2011年12月撮影)

### □敷地全体に施された液状化対策と、支持層まで届く、場所打ち鋼管コンクリート拡底杭等を採用。

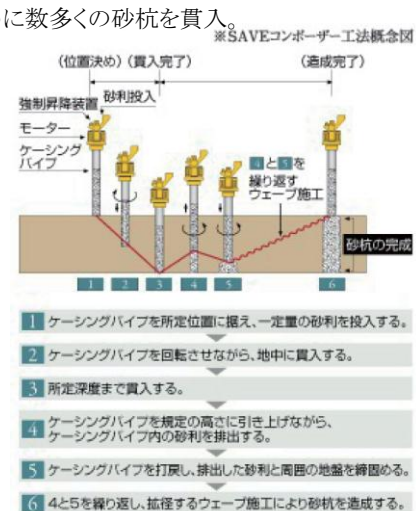
敷地全体に貫入された砂杭によって締固められた密度も高まった地盤。支持層まで届く長さ約38m~41mの場所打ち鋼管コンクリート拡底杭等を計43本打設(建築確認申請対象本数)。建物の重量をしっかりと支えます。



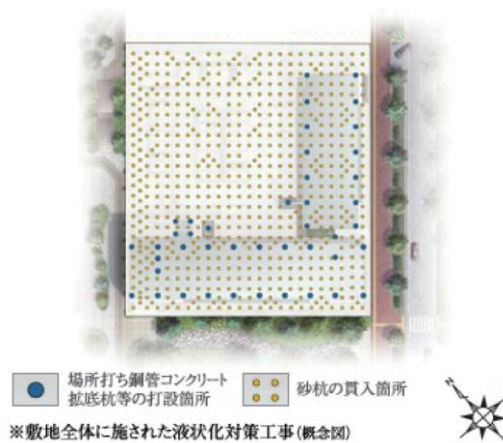
※概念図

### □地盤を締固めるために数多くの砂杭を貫入。

「クレヴィア検見川浜」では、数多くの現場で用いられ、1998年度に(株)地盤工学会技術開発賞を受賞している『静的締固め砂杭工法(SAVEコンポーザー工法)』を採用。圧縮沈下の低減、液状化防止を目的とした液状化対策を実施しました。地盤に数多くの砂杭を貫入し、その圧力によって地盤を締固めることにより、液状化の防止に備えています。



※SAVEコンポーザー工法概念図



※敷地全体に施された液状化対策工事(概念図)

※掲載の概念図はすべて計画中の図面に基づいたもので、実際とは異なります。杭位置は、一部建築確認申請時点と異なります。液状化対策は、液状化を完全に防ぐのではなく、それを保証するものではありません。また、建築構造を高めたものでもありません。砂杭の貫入箇所、コンクリート拡底杭の打設箇所は、計画段階の図面を基に起こしたものであり、実際とは異なります。砂杭とは、砂利が充填された杭のことです。

※記載のクオリティはクレヴィア検見川浜の事例となります。